

令和7年度

御所浦滞在日記



令和7年7月31日(木)

1限のテストが終わり、急いで予約しておいたタクシーに乗った。前日に御所浦までのルート調べたが、新神戸駅に10時30分に着かないとその日中に来島はできないらしい。橋が架かっていないので最後はフェリーで行くことになるが、フェリーの最終が16:30なのである。都会でいう終電が16:30ということだ。なんて不便な島なんだ。

新神戸駅から熊本駅まで新幹線で約3時間。御所浦は熊本にあるはずだから、もう着いたなと思っていたが、そこから港まで3時間もかかった。熊本って日本一広いに違いない。宇土駅から乗ったバスには人がそこそこ乗っていたが、大体は地元の人っぽかった。私よりも先に乗っていた大半の人が、私が降りるバス停に着いてもまだ乗っていた。一時間半も乗っていたのに。ここに住んでいる人にとって、2時間ほどのバスでの移動は日常なのだ。

知十というバス停で降りた。アニメーション映画でしか見たことのないようなバス停で、実在することに感動した。セミが顔に止まって発狂したり、蜂の音にビビり散らかしたりしながら20分ほどバスを待った。バスが見え、やっこの暑さから解放される！と思った矢先、バスがバス停前で加速し始めた。運転手が気付いていなかったらしい。必死で手を振ると、20m程先で止まってくれた。後に聞いた話ではあるが、知十でバスを待つ人は年に数人じゃないかということらしい。一命をとりとめ、港までは無事につきそうで安心した。

知十から乗ったバスには誰も乗っておらず、目的地である棚底まで貸し切り状態だった。まるでタクシー。タクシーに割安で乗れた嬉しさと、誰も乗せずに走っていた可能性がある寂しさとで複雑な気持ちだった。降りてから港までの道のりにも人の気配は一切なかった。フェリーは想像していたよりもかなり小さかったが、乗っていた人は意外と多かった。しかし、乗っている人は全員顔見知りだったようで、横浦島で一人が降りるとき、私以外の全員に「お疲れ様です」と挨拶をしていた。私もつられて頭を下げてしまった。

到着してからは、事前に連絡を取っていたMasさん（市役所の担当者）と合流した。勝手に60代くらいだろうと想像していたので、イケメンのお兄さんだったと判明したときは衝撃だった。車で走っていると、穏やかな海の景色が絶えず続いていて、思わず見入ってしまった。

宿に着くとIkeさん（地域おこし協力隊）に会った。初日にもかかわらずかなりお話を聞いた。地域おこし協力隊の後任がないこと、YAMAHAと協力

してマウンテンバイクの企画を進めていること、観光客が午前中で帰ってしまうこと等、色々なお話を聞くことができた。Ikeさんも29歳とは思えないほど若く、日に焼けている人ってみんなかっこいいなと思った。御所浦で真っ黒になりたい。

新しい地に飛び込んでいく経験は、これまで何度もしたはずなのに、ドキドキであまり寝付けなかった。不安もたくさんあるが、充実した時間にしたい。

令和7年8月1日(金)

着任初日。行動を共にする同期の一人と顔を合わせた。Aoiくん（名前かっこよすぎんか）で、自分よりも2歳年下だった。眼鏡をかけ、かなり日に焼けていた。喋り方はゆっくりすぎるから聞き取れるか、と思いきや、滑舌が悪すぎてあまり聞き取れない。最初に支所の方々に自己紹介をしたが、一言だけの私とは違い、興味深い自己紹介でリアクションを誘い出していた。すでに猛者感あり。水産系の専門学校らしく、バイトも水産系をやっているらしい。「歳は違うけど敬語なしで行こう」と伝える予定だったが、その前からすでにタメ口だった。やはり猛者なのではないか。

恐竜博物館を回った。事前に恐竜が好きだと伝えていたが、Aoi君は私よりもはるかに恐竜に詳しかった。何者なんだ。実物大の模型に圧倒された。御所浦で見つかった種もいて、「アマクサゴシヨウラムカシウオ」というそのままの名前に吹き出してしまった。



▲博物館から撮影した港とフェリー

牧島周辺を回った。あいさつ回りはほとんどしたことがなかったため、少し緊張していたが、皆さん非常に温かく迎えてくれたおかげで、緊張がほぐれていった。車での移動中、初日にして隣でお昼寝をかましている Aoi 君を見て、こいつは猛者だと確信した。

せんばいなかというまちづくり団体に挨拶をするということで、芦北屋（地域おこし協力隊である Mo さんの活動拠点で、嵐口地区の方が集まる場所）にお邪魔した。向かう途中、Shu さんや Kuw さん、Ega さんとお話をした。Shu さんからありがたくカレーパンを頂いたが、消費期限が切れていたことは内緒にしておこう。芦北屋に着くと、大勢の人に挨拶をしたが、名前までは覚えきれなかった。印象的だったのは、Rik さんという方だ。Ega さんと名刺交換をした際、その名刺を見て「なんだこの読みづらい名刺は！」とノンデリ発言をしていたことにツボって爆笑してしまった。

明日はマルシェに同行予定。



▲芦北屋で自己紹介

令和7年8月2日(土)

天草市のとなりまち、上天草市姫戸町というところで開催されるマルシェ出店に同行した。海上タクシーに乗ったのは初めてで、風が気持ちよかった。この取り組み自体初めてということだったらしいが、皆さんの会場設営の手際が良すぎて、1人置いてけぼりになっていた。Aoi君が次々に仕事を見つけてきて取り組むのを見て、悔しさを覚えた。

開場してからは、シーグラスフォトフレーム制作体験の係を担当した。となりにYAMAHAのポートがあり、そちらにかなり人が吸い込まれていった。物販などもあったが、子どもにはシーグラス制作体験がウケたらしく、こちら側がわりと繁盛していた。途中からシーグラスに絵をかいて、フォトフレーム用に使えるようにしてみた。Aoi君とせんばいなかのNiiさんと、誰の絵が選ばれるか対決を行ったが、絶対ない、100%ないと思っていた、Aoi君のアンモナイトの絵が子どもに選ばれた。やはり何か持っているのだろうか。Niiさんはさすがに納得できないという表情をしていた。

終盤に差し掛かると、有志によるステージが行われた。その中でも、和太鼓「輝」のステージに感動した。題名は忘れてしまったが、辛いことの先に輝かしい未来があることを表現している曲があった。和太鼓輝は兄弟で代表、副代表を務めているとのことだが、この公演までの険しかった道のりを表現しているようで、聞き入ってしまった。

暑かったマルシェが終わると、抽選で当たったピーマン4kgを消費すべく、ピーマンパーティーに招待してもらった。現地域おこし協力隊員のMoさん、彼女のパートナーであるHiさんとお話することができ、和太鼓に感動したことを伝えると、嵐口にも和太鼓があることが分かった。Moさん曰く、手が虫のようになるらしいので、一度は見てみたい。ほかにも、泥酔したら全裸で木登りする人の話や、おじいちゃんの歯を見たいという理由で島に来た変人がいることが分かった。島に来る人は変人が多いそうで、私も変人になれるか不安だが、精いっぱい努力したい。

今日一日だけで多くの人と関わることができた。もうスケジュールの半分くらいは過ぎたんじゃないか？

令和7年8月3日(日)

休日。しおさい館で鯛ピザを買い、グルメ倉庫というハンバーガー屋に顔を出した。鯛ピザはめちゃくちゃおいしかった。ピザが鯛のおいしさを引き出しているメニューで、バランスの良さを感じた。

Ikeさんと、エアコンの効いた部屋で風邪をひくほどお話をした。この日だけで御所浦について7割は知れたんじゃないかと思うほどだった。橋がかかる予定だったことや、人の特徴についての話が印象的だった。特に、島の中でも地区毎で人の特徴が違うらしい。他人に関心はあるが、あまり干渉しないのが牧島らしく、今住んでいる自分に合っていると感じた。

エアコンの風で体が芯から冷えてしまった。しっかり寝て体を回復させよう。

令和7年8月4日(月)

着任二日目。雨が降った。しばらく雨が降っていなかったらしく、島民にとっては恵みの雨だったそう。雨男は多分 Aoi 君だろう。

そんな Aoi 君だが、活動を始めるころには雨を弱め、気温も下げるという神業をやったのけた。一日目と同じくあいさつ回りをした後、鳥峠に登った。ここでも Aoi 君は桁違いのパワーを発揮。道中にある体の三倍ほどの大きさの倒木を、片手で持ち上げて投擲^{てき}していた。倒木をどかすために降りた Ikeさんと私は、その圧倒的なパワーに成すすべもなく立ち尽くしていた。

頂上に着くとそこには絶景が待っていた。面白いことに、上から見ると潮の流れが丸わかりだった。広大な海に浮かぶ島々、その間を縫う数隻の船は、まるでジオラマのようだった。ここでキャンプをして一日中過ごしてきたい。



▲Aoi 君のパワーで倒木撤去完了

令和7年8月5日(火)

Hamさんにお会いした。宿泊中のAoi yado(Aoiとこの宿は無関係)を定期的に清掃してくれている管理人らしい。朝一にお会いしたのだが、原付のカギをなくして慌てふためき、車で送ってもらった挙句、集合時間を間違えて帰られるという醜態をさらしてしまった。そんな私のだらしなさを見抜いたのか、掃除や食事について徹底的に教えてくださった。すでに母親のような存在になりつつあるHamさんだが、野球に興味があるらしく、話が盛り上がった。またの機会にプロ野球について語り合いたい。

清掃を終えると、横浦島に上陸した。御所浦島と橋が架かっていない島だが、唯一1周できる島でもあるらしい。横浦島の子どもたちはスクールボートを使って御所浦の学校に登校しているらしく、絶対に遅刻はできないんだろうなと感じた。避難所兼公園を訪れたり、ヤギを見たりした。観光的な魅力はこれからの島だと感じたが、人のよさは共通だった。

明日は太刀魚釣りということで、豪快に吊り上げるイメージトレーニングだけしておいて、今日は早めに眠りに就こう。

令和7年8月6日(水)

初めての船釣りに参加した。イメージトレーニングをし過ぎたせいか、太刀魚釣りの夢が長引いて寝坊してしまった。集合時間にはギリギリ間に合ったので良かった。

晴れている日に行こうということで今日を選んだが、出発して間もなく雨が降り始めた。雨の神Aoiでも、天候を自由に操れるわけではないらしい。全身がびしょ濡れになった。この日はかかりが悪い日らしく、釣果は乗せてもらったYuuさんの2匹のみで、私もAoiも釣れなかった。まだ1匹も釣っていない船も多く、そのうちの1隻から、「早く巻いた方がいいよ！」とありがたいアドバイスを受けたが、「1匹も釣ってないくせにアドバイスしてきよる」とYuuさんの冷静なツッコミが炸裂していた。Kanさんが2日後に来るので、今度は3人で挑戦したい。

マウンテンバイクコースの草刈りを行った。山の中のコースかと思っていたが、公園のようなコースだった。なあんだと舐めてかかっていたが、いざ走ってみると難しすぎて、コースの半分も走れなかった。注目のAoiは運動神経が良く、私が苦戦しているところもあっさりと走り抜けていた。Aoiは「体重移

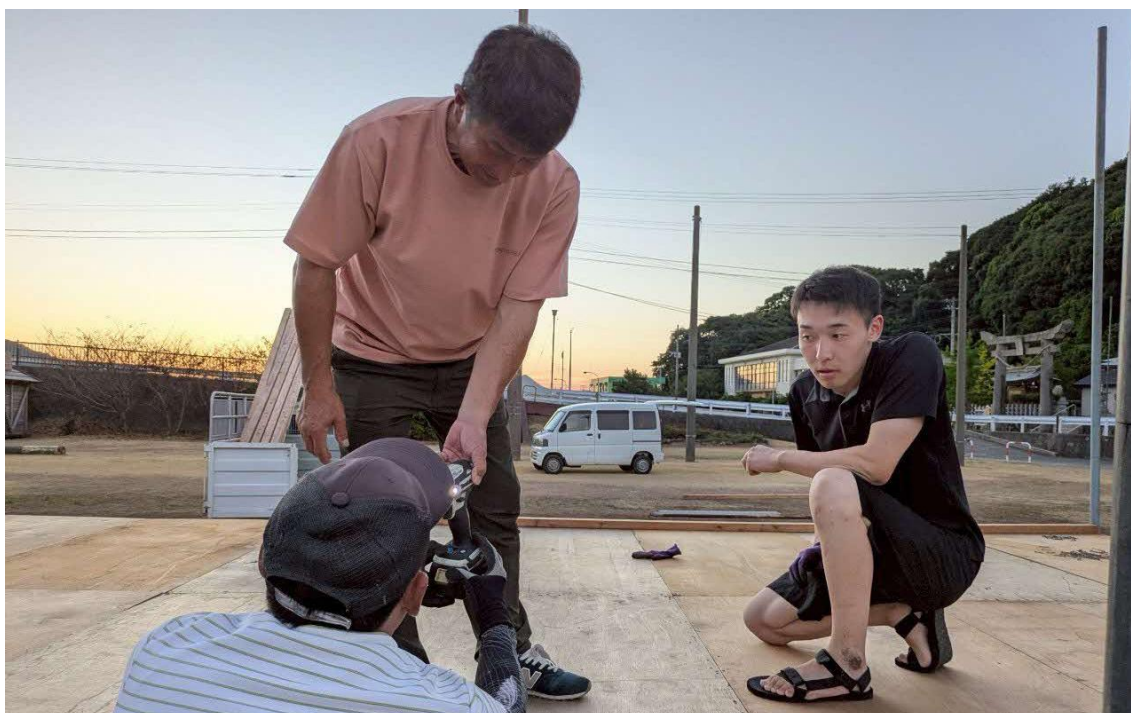
動を極端にすればいいんだよなあ。」と言っていた。天才肌なんだよなあと感心した。ちなみに、早くも Aoi の口癖「～なんだよなあー」にハマってしまい、多用するようになってしまった。恐ろしい。



▲苦戦したマウンテンバイク

嵐口地区で行われる予定のお祭りの準備に同行した。初めての木工仕事だったが、嵐口の方が優しく指導してくださったおかげで、たくさん経験することができた。スキルが身に着いたと Mas さんに伝えたが、絶対に忘れるだろうと言われてしまった。絶対に忘れないようにしたい。地区の方からお茶を8本も分けていただいた。こんな感じで分けてもらうことを、「のさり」というらしい。Mas さんからも、夕飯をのさった。ありがたい。

今日は朝から充実しすぎた。早く寝よう。



▲手作りの夏祭りステージ

令和7年8月7日(木)

まさかの雨。Aoi。パワーを抑えてくれ。

雨で外に出ることができないので、成果物として提出予定の ZINE を読み漁った。どうやら読ませるために創るものではなく、自分が創りたいものを創っていいらしい。独創的なものが多く、表現力が最大限発揮されていて面白かった。

しばらく風邪をひいていたが、よくなってきた。御所浦の人はエアコンの設定温度がバグっているので、次回からは気を付けたい。

令和7年8月8日(金)

Kanさんと合流した。事前に19歳と聞いていたが、見た目が想像以上に若すぎる。小柄で明るく、さっぱりした感じのいい子だった。KanさんもAoiと同じ水産系らしく、海洋生物が好きらしい。Aoiに早く会わせてやりたい。

Masさん、Ikeさん、Kanさんと一緒に芦北屋を訪れた。芦北屋は現地域おこし協力隊員のMoさんの活動拠点だそうで、何回か訪れていたが、部屋が非常に広い。そこで、Moさんの自家製スムージーをご馳走していただいた。これが、目玉が飛び出るほどうまかった。バナナとブルーベリー、はちみつ、ヨーグルトで作るらしく、体にもいい。Moさんは早く店を出すべきだ。

ZINEについて考えているけど、何も思いつかない。ほかの二人は水産系らしいが、私は私なりに個性あふれるものを創作したい。

令和7年8月9日(土)~11日(月)

3連休。風邪を治すために寝込んでいた。Masさんも体調を崩してしまったようで、私がうつしてしまったのかもしれない。申し訳ありません。

連日の豪雨で天草市はやばらしい。御所浦は運がいいのかAoiの仕業なのかはわからないが、ちょうど雨雲をすり抜けていた。とはいえAoi、もういいんじゃないか？

風呂場にフナ虫はやばすぎる。ゾクゾク入浴はいつまで続くのだろうか。

令和7年8月12日(火)

天草市長に挨拶すべく、天草市役所へ向かった。Kanさんは大学の用があるらしく、欠席だった。道中、豪雨の影響か、泥が飛び散っていた。それでも、浸かったとみられる道路の多くはきれいに掃除されていて、迅速な作業に感動した。

市役所はとてもきれいな建物だった。地元の市役所を見ていたからか、市役所の中は古臭いもんだと勝手に思っていた。思い込みはよくないんだよなあというAoiの声を聞きながら待っていると、いよいよ市長と対面する時間になった。緊張しながら市長室に入ると、優しそうな市長と副市長が出迎えてくださった。挨拶を交わし、意見交換の時間になった。私が神戸大学在学中であるというお話をすると、昔、塾を開いていたときに、神戸大学生と関わりがあったというお話をされていた。神戸に関わりがある方だなんて！と感動していると、Aoiの、神奈川の専門学校に通っているというお話に対して、神奈川にある筏は市長が造ったものだというお話をされていた。そんなことあるか？こうなると全国各地に何かしら関わりがあるんじゃないか？とも思えてきた。転勤族で各地を転々としてきた私にとって、憧れの存在だ。

挨拶が終わると、イルカウォッチングに行った。昔から、生まれ変わるならイルカがいいなと思っていたので、とても楽しみだった。船に乗ると波が荒く、イルカに到達する前に酔うんじゃないかと思うほど縦に大きく揺れていた。波やばいね！とAoiに言うと、「冬はもっとやばいんだよなあーこんなのやばいって言わないんだよなあ」と返されてしまった。気分が悪くなりかけていたそのとき、1匹のイルカを一瞬だけ目の端でとらえた。船員さんの合図でデッキに出ると、そこには数十匹ほどのイルカがいた。1匹でもいいから見られたらいいなと思っていたため、あまりの多さに驚いた。餌を求めてのびのびと自由に泳ぐイルカを見て、やっぱり生まれ変わったらイルカ一択だなと感じた。Aoiは「シュモクだあ！」とイルカよりもシュモクザメに夢中になっていた。彼の生まれ変わりはシュモクザメだろう。

イルカウォッチングが終わると、みつばちラジオに出演した。二人とも不思議と緊張はなく、意気込みと自己紹介等をうまく話すことができた。ラジオが終わると平山Aoiが、「もっと語りたかったんだよなあ」とさすがの余裕を見せていた。

今日もほんっとうに充実した一日だった。

令和7年8月13日(水)

写真を極めたいとふと思ったので、写真について学んだ。構図がたくさんあるらしく、勉強するとすぐに写真を撮りに行った。道中、釣りをしている青年を多く見かけた。お盆シーズンに帰ってきているのだろう。

1枚、納得する写真が撮れた。大天空構図というやつだ。ここにいる間、写真を極めてみよう。

THE 田舎の写真を撮りたく山の方へ入ったが、虫が顔に衝突しまくり、鳥肌が立ってきたのでやめた。残念だ。

2回目の嵐口のお祭りの手伝いに参加した。Katさんがアクロバティックに提灯を取り付けていて、まるでサスケを見ているようだった。私も真似してみようとしたが、脚立がグラついたただけで体が震えだしたので諦めた。かなり完成に近づいていて、当日が楽しみだ。今日もお茶を2本のさった。

令和7年8月14日(木)

嵐口のお祭り当日。

お盆で帰省する人が増えているのか、海岸沿いを歩く若者が増えている気がする。

午前中はしおさい館で、おもちゃの金魚すくいの運営をした。子どもとの接し方がうまくなっていった気がする。子どもがたくさん取ったのに、3個までしか持ち帰れないと説明をするのが苦しかった。その説明を聞いたときの、親の隠しきれなかった一瞬の落胆を感じ取る特技を身に着けた。かなり繁盛していて、やはり体験は子どもにとって楽しいのだと再認識できた。

Kanさんとも合流し、嵐口のお祭りの準備に連れていくことになった。準備をしながらKanさんと親睦を深めた。父親が小学校の校長であること、三人兄弟で、兄と弟がいること、兄と弟は野球をやっている、それについていって遊ぶのが楽しかった話などを聞いた。周りからはズースーと呼ばれていたらしい。これからはズースーと呼ぶことにした。

事前に屋台を任せると言われていたため、わたあめを作る練習をした。1回目ながらかなりうまくできた。得意げになってズースーにコツを教えていたが、ズースーは1回目にしてそれ以上のクオリティを出してきやがった。作る前に油を塗ってもらったかどうかの差に違いない。決して技術に差があるわけではない、と訴えたところ、「なんか言ってんなー」と軽く流されてしまっ

た。会って2日目にして舐められた、確実に。

やうちブラザーズを迎えに、ズースーと一緒に Kat さんの海上タクシー「宝盛丸」に乗せてもらった。Kat さんから、おぼれた人を見つけたら絶対に助けに行くなというアドバイスをいただいた。確かに、助けに行った人が道連れにされるニュースをよく見る。近くにある浮きそうなものを探して投げるのがベストなのだろう。

水俣に到着し、やうちブラザーズの方々が乗り込むと船が賑わった。親戚と兄弟の身内3人が集まってできたトリオだったが、「身内」の方言が「家内（やうち）」らしく、それが名前の由来らしい。ご当地らしい名前がセンスが爆発していた。漁師をやられていたということだったが、やはり最近是不漁で苦しいらしい。漁師も大変な仕事だと感じた。

いったん解散し、18:30に再集合するとすでに多くの人が出た。祭りが始まる前からわたあめに行列ができた。祭りを楽しむ暇もなく、絶えずわたあめを作っていた。そのおかげか、わたあめのプロになった。機械が回っている方向と逆方向に棒を回していくのだが、真横から見て綿が多いところを把握しつつ回していくという独自の回し方を身に着けると、これまでの失敗が嘘かのように巨大わたあめが出来上がった。コツをつかんだころには客が途絶えてきて、消化不良に終わったのでまたトライしたい。

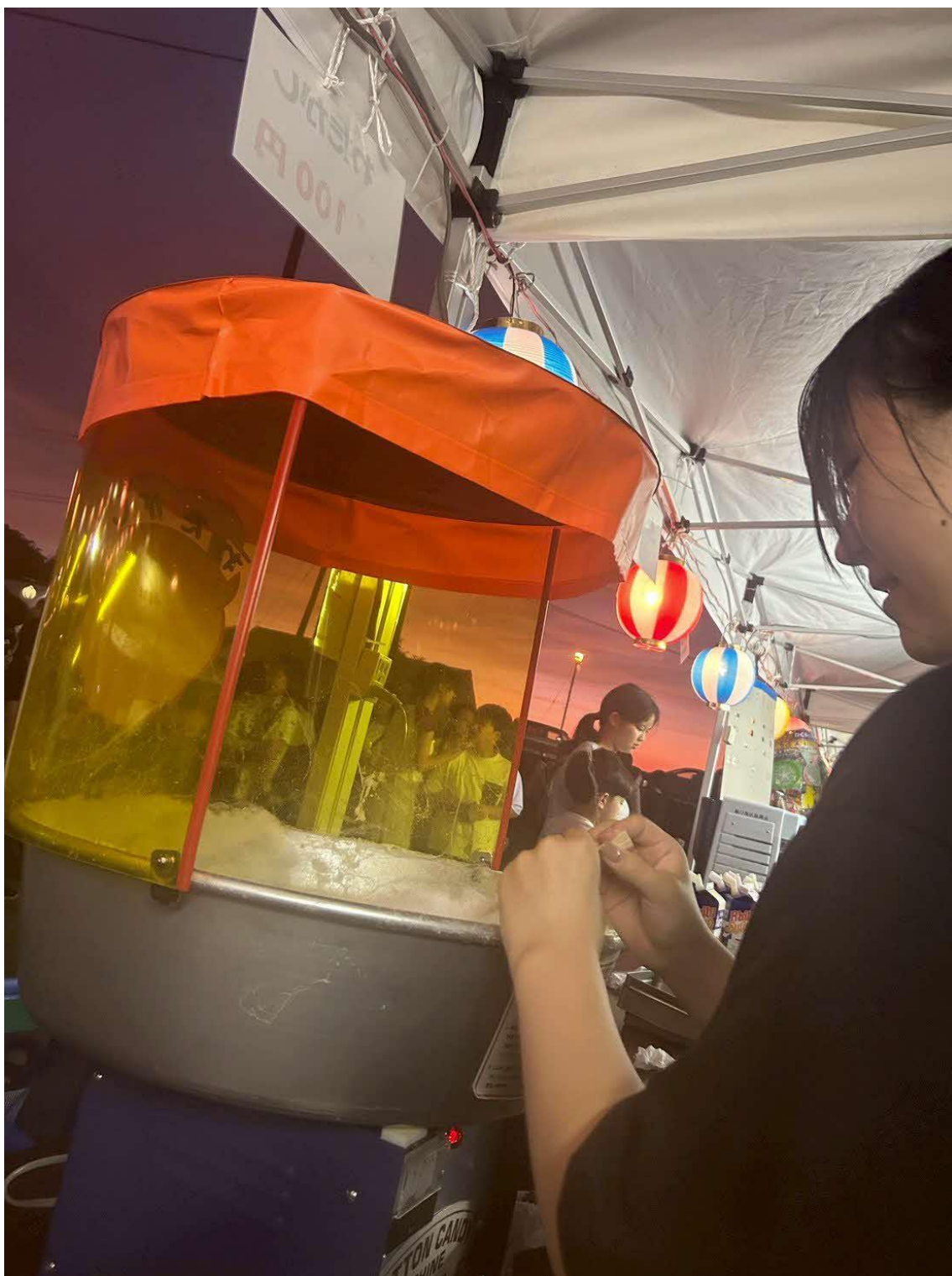
やうちブラザーズのステージは少し見る事ができた。船で話した印象としては優しいおじさんたちだったが、祭りではいざステージに上がると、面影もないくらいの変装をしていた。踊りながら伸ばしたゴムを股間に叩きつける芸は、芸歴25年の洗練された芸だと感じた。

カラオケ大会では、個性豊かな歌声が響いていた。特に、最初に歌っていた地元の方の演歌は、音源を流していると勘違いするほどだった。というか、音源だと思って聞いていたら会長が歌っていた。

祭りの雰囲気は最高だった。都会の人が密集した息苦しい祭りとは違い、居心地の良さを感じた。各地域の祭りは絶対に途絶えさせてはいけないと思った。

片付けが終わった後、MoさんとNiiさんに誘われて夜の鳥峠ドライブに同行した。Moさんの運転が荒く、富士急のアトラクション並みだった。夜の鳥峠は風が心地よく、落ち着いた雰囲気で非常に良かった。鳥峠の景色に夢中になっていると、2人が帰りたそうにこちらを見ていた。まだ5分も見てないけ

ど！？と思ったが、ここに長く住む人にとっては日常で、新鮮さはないのかもしれない。また夜に一人で来てみよう。



▲わたあめ作りにハマるズースー

令和7年8月15日(金)

今日は御所浦地区のお祭りがあるが、昨日同様しおさい館で金魚すくいの運営をした。途中で自動販売機の入替えをお願いされて、人生で初めて自動販売機を開けた。特に感動もなかったが、Aoiがなぜかハマっていて、商品入れの作業を横取りされてしまった。ズースーもきっちりと働いていた。



▲自販機の入替え作業とカメラ目線のIkeさん

終わると芦北屋に行き、餃子パーティーを行った。

Moさんと同級生のSinさん、Sakくんと初対面だった。Sakくんは御所浦初上陸で、岐阜から10時間くらい？運転してきたそうだ。二人とも社会人だそうで、留年した私にとって、手の届かない存在だった。

私が華麗な包丁さばきを披露し、餃子の種をこねていると、謎にNiiさんが張り合ってきた。皮に包む作業に移行すると、ここでもNiiさんが張り合ってくるわけだが、彼女の包み方のひどさに驚愕してしまった。皮の半分に水を塗るのは有名だが、彼女はなんと水がついている同士、ついていない同士でくっつけようとしていたのだ。片面がくっつかないのは当たり前である。大丈夫だろうか。

焼き担当はMoさんだった。「餃子」という本があるらしく（そんな本あるんや）、その通りに焼いてもらったらうますぎた。Moさんの占いが当たるらしいということで、占ってもらった。生年月日を伝えたところ、Moさんの同級生である「Yas」と同じだったらしい。一番気になったのは健康面で、悪い自覚があった肺と胃腸を当てられ、ドキッとした。強い年上女性と結婚し、尻に敷かれる人生らしいが信じないでおこう。仕事は大器晩成らしい。

占いで盛り上がっていると、花火の時間になった。事前にIkeさんから、真上に上がるので首が痛くなると話を聞いていた。予算等の関係上、今年が最後の花火らしく、仮に再申請しても通らないらしい。会場に着くと、御所浦のお祭りを手伝っていたはずのAoiが、40代の女性をナンパしているところを目撃した。彼はやはりすごい。

Sakくんからかき氷をおごってもらい、支所前で食べていると花火が始まった。想像以上に近く、音も大きかったため、毎年見ていた花火よりも迫力が感じられた。地域で行われる花火はたくさん見たことがあったが、長さや種類数、迫力のどれをとっても一番だと思った。最後を見ることができた嬉しさと、終わってしまう寂しさが混在していた。

その後も餃子パーティーの続きを行った。主に占いで、色々な人の色々な未来を知ることができた。まあ占いなんて信じてないけど。

詩人であるSakくんのペンネーム「大和田サク」に対抗して、「田平田友」というペンネームを授かった。詩人への第一歩だ。

幸せ過ぎる日々を送れている。島に来て本当に良かった。

令和7年8月16日(土)

Ikeさんから特製ペペロンチーノを食べないかと誘っていただいた。是非食べます!といったが、にんにくを丸ごと1個切り始めたのを見て少し後悔した。この後予定あるんだよな。Ikeさんが大丈夫だということで、腹をくくって食べることにした。ベーコンとにんにくが同じ量のペペロンチーノを食べたことはありますか?不安だったが、実際に食べてみるとにんにくはそこまで強くなく、何よりめっちゃくちゃおいしかった。おいしすぎた。



▲ベーコンとにんにくが1：1のペペロンチーノ 激うま

横浦島にインターン生3人で恵比寿像を撮影しに行った。行きの船内で、「ウミガメのスープ」の問題を2人に出题した。2人とも頭が固く、なかなか正解にたどり着かなかった。まだまだなんだよな。

横浦島に着くと、さっそく勉強した写真を撮った。ズースーがどうしてもモデルは嫌だということで、Aoiをモデルに写真を撮った。天才肌のAoiだが、なぜか写真のときは顎がしゃくっていたり、工場長顔だったりモデルとしては不向きだった。今度はズースーをモデルに写真を撮ろう。



▲モデル Aoi

横浦島での恵比寿像巡りは、Yagiさんに案内してもらった。敷地内への侵入を躊躇っていた3人だったが、Yagiさんパワーでズカズカと入ることができた。島の長のようなYagiさんだが、島出身ではないらしい。やはり島に来る人はみなすごい人たちばかりだと再認識させられた。恵比寿像は、それぞれ個性があって興味深かった。色がついているものもあれば、鯛や貝類が付属しているもの、屋根のしゃちほこと同化して人魚みたいになっているものなどがあった。多くは玄関と同じ方向を向いていたが、家の内側を向いている恵比寿像

もあった。Yagi さん曰く、海を向くように作られているらしい。

写真を撮り終わると、Yagi さんの店でズースーからアイスをおごってもらった。熊本のアイスは見たことのないものばかりで、そのうちの1つを選んだ（名前は忘れた）。めちゃくちゃおいしかった。Yagi さん、ありがとうございました！



▲横浦港と定期船

令和7年8月17日(日)

久しぶりに一人の休日。読書したりゲームしたり、踊ったり。いつもだったら何事もなく楽しく過ごせるが、なんだか外に出ないとソワソワしたため、少し散歩をした。御所浦に来て、インドアからアウトドアに変わってしまったのだろうか。

令和7年8月18日(月)

特に予定がなかったので、池田屋（Aoiが泊まっている宿）に集合し、作りたいリール動画の案を出し合った。ズースーはヤンキーが躍っている横揺れダンスに憧れているらしい。横揺れダンスの解説動画を見漁っていた。まじか。風景を撮ったリール動画で対決しようということになったが、なぜかAoiは乗り気じゃなかった。自分が圧勝すると確信しているからだろうか。やはり天才は違う。

学校あるあるをやろうと、唐突の謎提案をAoiがしてきたので、乗っかった。初手はAoiだったが、毎日のように暴行や傷害事件が起きるとい学校ないないを披露してきた。その中で生き残ったAoiは言わずもがな強者だ。ズースーは天草高校、略して「あまたか」出身らしく、あまたか体操を見せてくれた。無駄な動きが一切なく、絶対に後世に残していくべき素晴らしい体操だった。

Aoiと一緒にYuuさんのコーヒーを頂いた。数多くの昔話を聞いたが、印象的だったのは漁中のワイヤー事故だ。船についているワイヤーが劣化してちぎれ、暴れることがある。それが人間に当たると容赦なく引き裂かれるらしい。Yuuさんが電話で外していたとき、代わりにその場を任されていた人がワイヤーに巻かれる大事故に巻き込まれたそうで、そのときにかかってきた電話に命を救われたらしい。漁師ってそんな環境で頑張っているんだねとAoiに言う、「確率的には交通事故の方がずっと高いんだよなあ」と冷静に返された。そう考えると、人間でも生きるリスクばかりだ。面白い話が聞けたので、島から帰るまでにドリンクをすべて制覇しよう。

令和7年8月19日(水)

暇になったので、牧島にある「島カフェここね」を訪れた。店に入ると客はおらず、家の中のようなアットホームな雰囲気だった。メニューに目を通すと、パスタやケーキ、パンなど、メニューがかなり豊富で、牧島に留めておくにはもったいないラインナップだった。夫婦で定年退職後にオープンし、3、4年経つ店だ。博物館ができる前、独居老人が多く、認知症を防ぐための「オレンジカフェ」として始まったが、島民から、一般も利用できるカフェとしても開いてくれとお願いがあり、月2回オレンジカフェ、それ以外は一般も利用できるカフェとして開くことにしたそう。現状の御所浦は飲食店が少なく、博物館にほど近い松苑に一極集中している。昔はラーメン屋兼居酒屋があったが、栄えていた昔でさえ経営が厳しく、閉めてしまったらしい。

カフェのオーナーには、Aoiが幼少期にお世話になったそう。Aoiの母から英語で会話するようにしてほしいと、大変なお願いがあったのだとか。そんなこともあってか、Aoiは覚えられているらしい。

まだまだお話を聞きたかったが、途中で6人のお客さんがいらっしやった。会話の内容的に、教員仲間旅行に来たらしく、烏峠に寄った後、島カフェを訪れたとのことだった。車があれば一日楽しめる島だと感じた。次回訪れたときはもう少しお話を聞いてみたい。

池田屋に帰ると、ズースーに「うえい、カフェ男子」と馬鹿にされた。クソ、覚えとけ。

インスタグラム用のリール動画のために、Aoiとズースーと3人で動画を撮った。烏峠への道の途中にスポットがあったので、そこで撮ることに決めた。動画編集の知識がないので、よくあるRADWIMPSを自分で歌いながら動画を撮った。面白いのが撮れたとウキウキで2人の元に戻ったら、数百メートル先にいたのに歌声が聞こえていたようだ。恥ずかしい。Aoiは島で声が通る理由を丁寧に教えてくれたが、覚えていない。申し訳ない。

令和7年8月20日(水)

養殖体験ができるということで、3人で朝6時に養殖場に集合した。昨日、「俺は15分前に行くんだ！」と豪語していたAoiだったが、5分前に普通に原付で追い抜いた。受け入れてくださる会社の中に入ると、がっつり日焼けしたカッコいい方々が並んでいた。Aoiとズースーは魚やエサに興味があるため、エサやりの見学に同行。私は1人で出荷する船に乗り、従業員の1日を見学することにした。これがなかなかきつく、立派に育った鯛をすくい上げるだけで腕がパンパンになった。それを見ていた60代くらいの船員の方が「みっともねえなあ」とぼやいていたのを聞き、漢平田（私）が覚醒。効率いい体の使い方を覚え、船員たちを圧倒するほどの速さで次々とすくいあげていった。

箱詰めが終わると、トラックへの積み込みを行うために港へ向かった。そこで、船長の方とお話をした。浦田水産のイケメン社長は寛容で、社員の失敗を受け入れるような人格者だと語っていた。だが、寛容すぎると社員の中に気の緩みが生まれ、魚の質も落ちてしまうので、船長が厳しくしているそう。たしかに、私が飲料水の入ったクーラーボックスを閉め忘れるという失態を犯した際、厳重に注意された。でもその厳しさがあるからこそ、それ以降は絶対に閉めようと気を引き締めることができた。社員それぞれに役割があり、各々が必要な役割を補完し合っている。いいチームだと感じた。（上から目線みたいになってしまっでごめんなさい）

きつかった出荷作業も無事に終え、くたくたで帰還すると2人と合流した。私が一生懸命肉体労働をしている中、彼らは穏やかにエサやりをしていたそう。彼らよりも貴重な体験をすることができたと信じることにしよう。



▲養殖場での漢平田

午後からは、陸路のない島の裏側へも上陸できる期間限定ツアー「化石発見クルーズ」に同行した。島の観光を一手に担う Mi さんの船に乗せてもらった。高知大学の学生が大きい足跡の化石を見つけたという話を聞いて、俺も見つけてやろうとやる気満々で上陸した。



▲化石発見クルーズで採集場に初上陸

伸びながらあくびをしていると、すでに子どもが化石を見つけていたようで拍子抜けしてしまった。拾った石が化石だったなんてことは珍しくないほどに化石が多いのだ。のんびりしていたら負けてしまうので、必死になって探した。これは寄贈できるだろうと Yuu さんに持っていったものでも、「ああ、これはトリゴニアだね」と全く相手にされなかったことが悔しかった。まあでも、3年前の「ヤキュウブ・ドコナゲテンネン（軟式球）」の化石を見つけることができたのでよしとしよう。当然置いて帰ったけど。



▲大発見！？「ヤキュウブ」の化石

化石のクルージングから帰ると、Aoiの母 Ri さんから夕飯をご馳走していただいた。夕飯の準備中、私はというと、養殖の作業中に覚醒した反動が来たのか、ひどい頭痛に襲われていた。Ri さん、Aoi、手伝えず申し訳ありません！！

Ri さんが作った料理は豪華すぎて、コース料理を食べているようだった。食事中は Ri さんの武勇伝に聞き入ってしまった。生徒会長にならないかと懇願された話、生徒会長になったら熊本県知事賞で表彰された話、刺身を食べるた

めに帰省したら不整脈が治った話など、やはり Aoi はすごい遺伝子を引き継いでいるのかと感心するものばかりだった。頭痛で思うように食べることができなかったが、Aoi 親子と楽しいお話をたくさんすることができた。ありがとうございました。

令和 7 年 8 月 21 日(木)

頭痛が翌日も続いたため、休みをもらった。昼間に海に行くときは、サングラスと帽子を着用していこう。

令和 7 年 8 月 22 日(金)

嵐口のお祭りの打ち上げに招待してもらった。場所は「げんき」という居酒屋らしい。池田屋から Aoi と一緒に向かったが、異常な速さで歩くため着いた頃には汗びっしょりだった。「都会だとこんなの普通なんだよな」と言われた。俺も都会住みなんだよな。

げんきにつくと、会長の前の席に案内された。会長の前の席だけ不自然に空いていたのは触れないでおこう。Tak さんの挨拶で宴会が始まると、会長とマンツーマンで対話が始まった。社会勉強が大切らしく、その中でも交渉に必要となる法律が大切だと学んだ。また、上に立つ者の心得も教えていただいた。宴会の場でも常に周りを見渡し、全員の好みを把握しているそう。会長のような部下想いで熱い人間になりたいと感じた。

会長と対話している最中に横から鬼滅の刃の話が聞こえてきた。まさか御所浦の方々から鬼滅とか Snow Man という単語が出てくるとは思わなかった。会長まで鬼滅の刃を知っているのだから、御所浦の高齢者は若いと言っていいだろう。

終わり際に Yos さんという方とお話しした。天草出身だが、神戸で就職して 20 年近く住んでいたそう。Yos さんは関西のノリが心地よかったらしく、御所浦でツッコミまちが多いことに不満を募らせていた。皆さん、Yos さんがボケたときは容赦なくツッコんであげてください！富士山が好きで、写真が欲しいと言っていたので LINE を交換した。戻ったら富士山の写真を毎日送るようにしよう。

他にもたくさんの方とお話しすることができた。来年のお祭りも参加したい。

令和7年8月23日(土)

休日。ごしょんなベーズ（私が住んでいる宿の一階スペース）のふかふかイスで1日中読書した。あのイスは快適すぎる。

当たり前のようにフナムシがいるので、仲良くなろうと思った。ちょっとかわいく見えたので近づいて観察したら、大量の足が動き出して鳥肌が立った。御所浦の人とは良好な関係を築いてきたが、御所浦のフナムシとは仲良くなれそうにない。

令和7年8月24日(日)

散髪とラーメンを求めて、1人で本渡へ行った。行きのフェリーで、養殖のときにお世話になった社員の方とお話をした。パチンコをしに行くらしい。フェリーの中では競馬について熱心に教えていただいた。最近は荒れているらしい。適当に予想してみたら「バカヤロウ！」と言われてしまった。昔の話も面白かった。木登りで怪我をしたら、雑草の中から薬草を見抜いて応急処置ができたらしい。今の時代の子どもができないことを嘆いていた。時代は変わっていくんだよな。

養殖の方と別れ、カットを予約していた店に到着した。店員さんに御所浦でインターンをしていることを伝えると、話が弾んでラーメン屋を紹介してくれた。店員さんの同級生で、ハイヤという店らしい。とてもいい店員さんだったので、しっかりとインスタの宣伝をした。

またいつか機会があったら来ますと伝え、ラーメンハイヤに向かった。エビとんこつという食べたことのないジャンルだったが、エビの出汁が豚骨と相性抜群でおいしかった。紹介されてきたと伝えると、ライスをサービスしてくれた。また来たい。

その後は散歩をしながら写真を撮って回ったが、あまりにも暑すぎたため予定より2時間早く引き上げた。フォトグラファー平田までの道のりは遠い。

一人だったけど充実した休日だった。

令和7年8月25日(月)

島根県の海士町から、若者を増やすことに成功した方が来るらしいということで、ランチ会に参加した。Yamさんという方から「地方は必要だと思っ
か？」と鋭い質問をいただき、何とも言えませんがと浅い考えを披露したところ、呆れたような顔をされた気がした。こんなに素敵な文化がある御所浦が不
必要なわけがない。答えられなかった後悔を一日中引きずった。

夕方になると、鳥峠へウエディング撮影の手伝いに向かった。曇天でいい写
真が撮れるのか疑問に思っていたが、雲の合間から射す日光が神秘的で、これ
までで1番の見え方だった。新郎新婦の素敵な笑顔が印象的だった。とても仲
がよさそうで、理想なんだよな。

(芦北屋で食卓を囲んでいるとき的一幕)

Aoi「僕、昔告白されたんだけどさ、」

ズースー「え！？(驚き)」←死ぬほど失礼

Moさん「今、え！？って言ったよね？」←絶対触れない方が良かった

必死に言い訳をするズースー、傷つくAoi、笑いまくるMoさん、絶対擦っ
てやろうとたくらむ私。にぎやかな食卓だ。



▲鳥峠からの眺望

令和7年8月26日(火)

2回目のみつばちラジオに、ズースーと出演した。前회가うまくいったため、今回は油断してほとんど準備しなかったが、今回もうまくいった。進行役の方のリアクションが気持ちよく、話しやすい雰囲気をつくってくれた。ズースーに質問が少ない気がして、少し納得がいかなかった。

お祭りの日にお会いした Sak くんが、焼き菓子を送ってくれるという好プレーをしてくれたので、お返事の手紙をみんなで書きまくった。Sak くんは似顔絵対決を Nii さんと行った。先攻は Nii さんだったが、顔と髪は輪郭が寿司だった時点で勝ちを確信した。案の定圧勝だった。Mo さん曰く、普通は目から書き始めるらしい。知らなかった。

Aoi とズースーが漁から帰ってきた。大量の太刀魚とその仲間たちを連れていた。お疲れのようだったので手伝おうかと声を掛けたが、「かえって足手まといだ」と、Nii さんに言われた。なんて失礼な奴だ。2時間かけて作ってくれた魚料理は最高で、食べ過ぎてしまった。

途中、Zi さん (Aoi とズースーが漁体験でお世話になった方) とお会いした。ビールを持ってきてくれたので、遠慮せず頂いた。とても話しやすく、さわやかでかっこよかった。あんな風に人の話を聞けるようになればいいな。これから意識していこう。

令和7年8月27日(水)

最近は芦北屋に通うことが多い。いつも賑わっていて、居心地がいいのだ。

今日も芦北屋で ZINE を作成していると、小学2年生の Kai くんが、Mo さんに勉強を教わりに来た。時計を勉強したいと意気込んでいて、やる気のある子だったが、睡眠不足らしく眠気と戦っていた。時計なんて簡単に教えられそうだと思ったが、まだ高校生に微積を教える方が簡単なんじゃないかと思えるほどに難しかった。一体私はどのようにして覚えたのだろうか。なかなか覚えてくれなくても、根気強く教える Mo さんは教育者だった。

Kai くんを見届けた後、Mo さんが販売している御所浦 T シャツの印刷を手伝った。ロゴ以外の部分を露光液で塗った網を用意し、網の上からインクを塗ると、インクがロゴの形で貫通する仕組みらしい。意外と簡単にできることに感動した。Nii と妹の Man ちゃんが手伝ってくれたこともあり、かなり早く終

えることができた。バイト代として、オレンジ色の御所浦 T シャツをもらった。

MoさんとNiiがカレーを作ってくれた。味付けは適当だそうで、その辺にある調味料をぶち込みまくったらしい。それなのに人生で食べたカレーの中で5本の指に入るくらいうまかった。調味料を当てる対決をズースーと行い、2回外した方が負けというルールで行った。見事に私が負けたわけだが、なんか微妙な空気になりそうだったので思い切って罰ゲームで場を明るくしようとした。かなり自信のある一発ギャグを披露したが、ズースーから乾いた拍手が上がるのみだった。しまいにはインスタのストーリーに勝手に上げられ、最後まで真似され続けた。私はなんて不憫なんだ。おいしいカレーを食べられただけ幸せと思うことにしよう。

令和7年8月28日(木)

いつも通り芦北屋でZINEを作成していると、Yumさんという元気なおばあちゃんが、オレンジカフェ（認知症を予防するための集まり）で使用するパズルを持ってきたので、パズル対決を行った。Yumさんが煽るという心理戦を仕掛けてきたので、私も応戦した。私の煽りに動揺したのか、一度解いた問題をもう一度やってしまうという大失態を犯していた。Yumさん、残念でした。煽りは私の得意分野なのです。Moさんが途中から参戦したが、私に勝てるはずもなく。久しぶりのパズルを楽しめた。

夕飯は、御所浦の隠れ特産品である猪肉をいただいた。Ikeさん、Hamさんにごしょんなべーすに来ていただき、語り合いながら食べた。ゲームという3人の共通した趣味があり、盛り上がった。IkeさんとHamさんは私より6つか7つ年上で、妖怪ウォッチが一番楽しいと伝えると爆笑された。いや、妖怪ウォッチは舐めない方がいい。マジのガチで神ゲーだから。お二人が話しているゲームは聞いたことがなかったが、ワクワクするような面白いゲームだった。Ikeさんの過去の恋愛話も面白かった。肝心の猪肉だが、血生臭さが全くなく、これまで食べた燻製の中でも5本の指に入るくらいおいしかった。脂身が何回噛んでも噛み切れなかったので、歯を鋭くしておきたい。

幸せな毎日が当たり前になり、1日が早い。猪肉の脂身のように、もっとかみしめなきゃ。

令和7年8月29日(金)

Moさんが実家に帰ったので芦北屋は休み。やることがないので、急遽Miさん（クルーズ船に乗せてくださった方）を訪問することにした。島の観光の重要人物らしい。

訪問すると、普段の活発なイメージとは違い、穏やかに迎えてくださった。社会人時代は公務員として勤めていたらしく、観光担当となり、修学旅行の受け入れを行ったそう。「旅行は交流だ」と力強く語っていたことが印象的だった。当時、民泊の受け入れ先で募集をかけたところ、40軒もあったらしい。学生は漁体験や料理体験等を、それぞれの民泊で行い、地元住民と交流を通じて仲を深めるのだ。私のイメージする修学旅行は完全に観光のみだったので、同期との思い出作りだった。しかし、交流してその地の人たちと思い出を創る、御所浦で行われるような修学旅行の方が素敵じゃないかと感じた。実際、修学旅行生が再び御所浦を訪れることもあるそう。これから旅行する際は、地元住民との交流を重視してみよう。

話が終わると、伝馬舟に乗らないかと提案してくださったので、漕ぐ体験をした。伝馬舟は昔、馬と大型船をつなぐ役割を果たしていたそう。櫓を漕いでみたが、支点の固定する部分が頻繁に外れてしまい、非常に難しかった。Miさんからは「さまになってきた」とお世辞をいただいたが、まっすぐ進むことは叶わず、壁に激突してしまった。

最後に巻き結びを教わった。コツをつかんで我流でやってみたところ、Miさんに「なあにかっこつけて！」と言われてしまった。巻き結びをかっこよく結ぶ大会を開いたなら、たぶん私が一番だろう。Miさん、急な訪問でしたが、ありがとうございました。



▲櫓漕ぎの「伝馬舟」

18時から、役所の方やKatさん夫妻、Kioさんなどを集めて、ズースーの送別会を行った。ズースーは明後日で任期を終えてしまうのだ。一番遅く来たのに、一番早く帰ってしまうなんて。寂しいだろうが。会の中で、この3人の組み合わせが良かったとMasさんに言っていただけた。私としても、歳は全員違うけど、みんなフランクに接してくれてよかった。Kitさんがおっしゃっていたように、この縁は絶対に大切にしよう。

Aoiが飲み過ぎて（梅酒一杯）顔を真っ赤にしていたので、私も少し調子に乗ってしまい、焼酎を飲みますと宣言してしまった。配分が分からないKatさんが8:2で焼酎を割り、Kioさんが野球の応援歌で煽ってくるので、そりゃ飲むしかないだろう。これまでの人生の中でも5本の指に入るくらい酔った。最後の挨拶では、ぜひ御所浦ドジャースへ移籍してほしいとのお願いがあったので、検討したい。

深夜、気持ち悪くて目が覚めた。人生で初めて吐くかと思ったので、港を散歩した。この1か月はとても早く感じたが、振り返ってみると充実していた。

御所浦人が最高過ぎる。気づくと天然水のペットボトルを月に掲げ、「この島は素晴らしい！」と一人で叫んでいた。酔い過ぎた。近所の皆さん、申し訳ありません。



▲この島は素晴らしい！

令和7年8月30日(土)

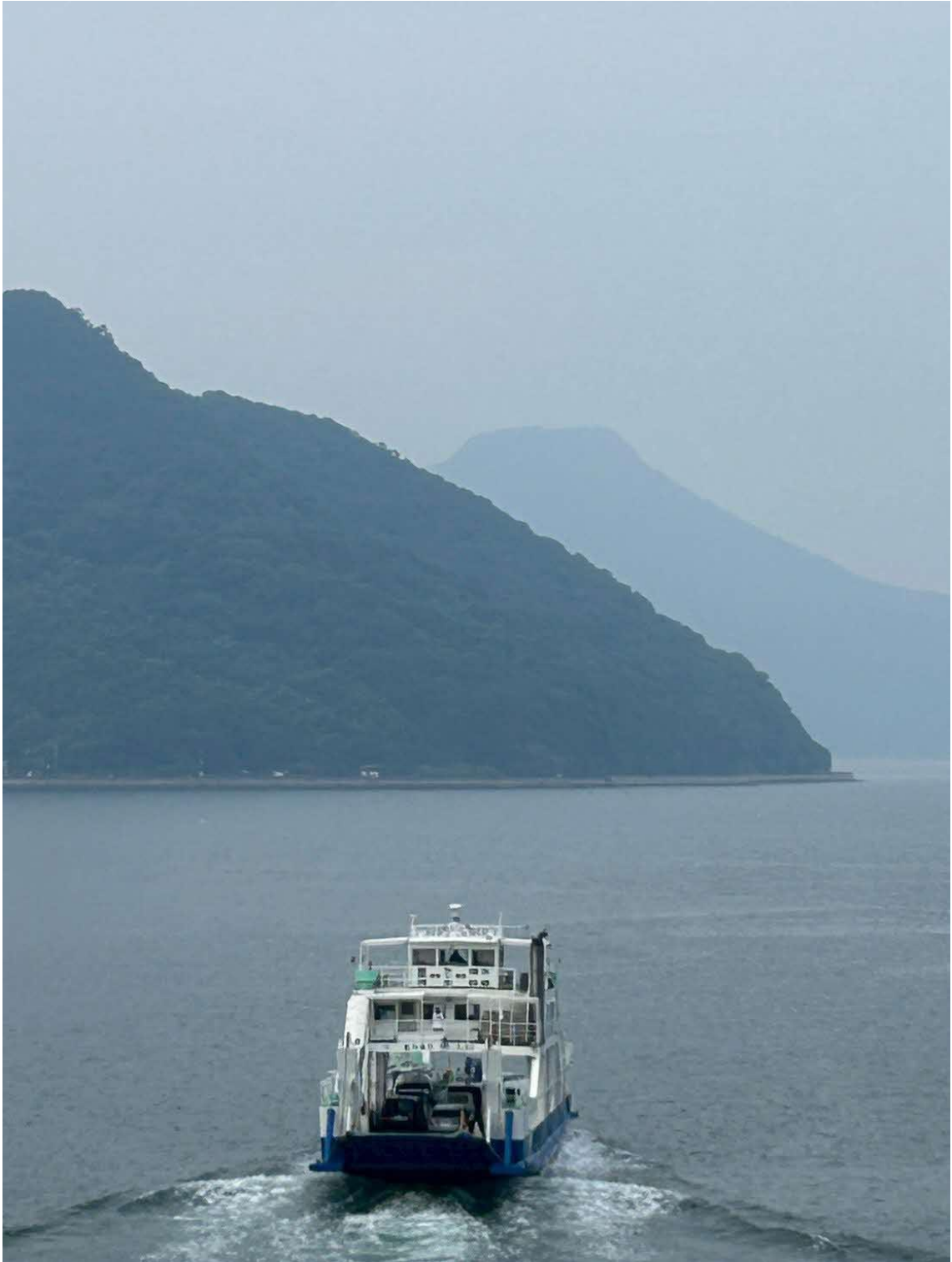
ズースーの最終日ということで、彼女の希望で島カフェここねに3人で訪問した。この日も繁盛していて、我々のほかに2組いた。私は明太子パスタを注文したが、絶品だった。店にいたお客さんの一人とたくさんお話した。なんとこの人も神戸に縁があり、新神戸駅近くのトンネルに関わったそう。いつも使わせてもらっています！と伝えた。配達員と農業をやっているそうで、小学生の農業体験も受け入れているらしい。

ズースーが校長先生の娘だという話をしていると、もう1組の男女がこちらに来て、自分たちも教員だと打ち明けてくれた。長崎大出身だそうで、ズースーの先輩だそう。親が上司で娘が後輩という複雑な縁だった。女性の方は2年生の担任で、Kaiくんが時計を頑張っていたお話をした。店内にいた他の客全員と話す店なんて初めてだ。やはり御所浦ってすごい。

まだズースーが出発する時間に余裕があるので、最後にいつも通り池田屋に集まった。いつも通りの雑談だった。Aoiの話が大半を占めていたのもいつも通りだった。Aoiが「ちぎってちぎって」という最後の名言を残してくれたので、ちぎってポーズで写真を撮った。みんないい笑顔だった。

牧島に架かる橋の上からお見送りをした。出発時間を勘違いしてフェリーと競走する羽目になったが、ズースーがフェリーの外にいてくれたおかげで見つけることができた。フェリーから動画を撮ってくれていたが、全く私の姿が映っていなかった。最後まで何をしているんだこの子は。

1人見送るのにこんなに寂しい気持ちになるなんて。それほど濃い日々を共有していたのだろう。ありがとう。



▲橋の上からお見送り

令和7年8月31日(日)

ごしょんなべーすで1日中 ZINE を作成していた。日々あったことを箇条書きにしてあるだけなので、思い出して書くのが大変だ。これからはもう少し詳しく記録しておこう。

書いていてすごく楽しい。過去に戻った気分になれる。これからも個人的に日記をつけていこうかな。

令和7年9月1日(月)

Aoi の祖母に水俣病についてお話を聞こうと思ったが、忙しいらしかったので原付で島めぐりをした。御所浦の南側の地域は海の見え方が全く違った。アプリで加工したかのような海の見え方で、澄んだ青色だった。原付系フォトグラファーとして写真を撮りまくった。



▲御所浦の南方面

グーグルマップで島を見てみると、牧島に大通峠というものがあつた。行つてみると、途中から道が舗装されておらず、何度もタイヤを取られて転びそうになつた。ボロボロになりながらも最奥まで進むと、浜辺へとたどり着いた。これがものすごく綺麗で、まさに秘境だつた。昔はここからも船が出ていたのだろうか。捨てられた船やロープが散らばつていた。最近練習している OKP サイファーを1人で踊り、君の名は。のセリフを満足いくまで叫んで帰ることにした。

牧島と御所浦の南側は行き尽くした。あとは嵐口だな。



▲御所浦島と牧島に架かる「中瀬戸橋」

令和7年9月2日(火)

YAMAHA のマウンテンバイクで走れるポテンシャルを秘めた山道があると聞いたので、コース開拓を手伝った。Ike さん、Aoi、私の3人だつた。ワクワクしていたが、初っ端から虫に襲われて地獄の時間と化した。Ike さんがペンチ、Aoi がのこぎり、私が鉋を担当した。Aoi が「ギコギコ～」と言いながら伐採していたので、ギコギコ Aoi というあだ名をつけた。それに伴い、サクサ

ク Ike、スパスパ平田が命名された。書いていて思ったけど、これ内輪ノリで全然面白くねえな。まあ ZINE だから許されるでしょう。午前中いっぱい伐採した結果、予定の 8 分の 1 を伐採することができた。8 分の 1 を吉ととるか凶ととるかはご自由に。



▲山道を伐採

Moさんが太鼓の練習でいなかったので、芦北屋にはAoi、Nii、私に加えて、この前来たZiさんが4人の子どもを連れてきた。Ziさんの妻であるKurさんも来て非常に賑やかな夕飯だった。Aoiが場を盛り上げようと体を張ってくれた。梅酒一杯で顔を真っ赤にしていたのにもかかわらず、梅酒の大きなパック一本を飲み切ろうとしていたのだ。帰るまでに飲み切って捨てなくてはいけないという理由らしいので、俺が手伝うよと言ったが、なぜか断られ、僕一人で飲むんだと豪語していた。トイレにこもるほどきつそうだったので、ばれないように半分くらいお手伝いし、無事飲み干すことに成功した。誇らしそうに頷くAoiに拍手喝さいだった。

今日も楽しい一日だったな。

令和7年9月3日(水)

昨日から芦北屋にMoさんの大学の先輩（以下、「先輩」と書きます）が来ていた。西宮在住ということで、神戸の家から近いところに住んでいるらしい。THE関西の女という感じで、失礼かもしれないが少し恐怖を覚えていた。姉御肌のようだったMoさんのお世話をしていた。これは絶対に失礼がないようにしなくてはと身が引き締まる思いだった。

今日も芦北屋でZINE作成をした。夕飯になると、Moさん、先輩、Aoi、私の4人で焼肉をした。Moさんが鬼滅の刃を先輩に布教しようとしていたが、おそらく失敗していた。焼肉は非常においしかった。

その後、Moさんの部屋に置くラックを4人で作成した。欠陥品なのか、接合部が全くハマらなかった。近くにハンマーがあった。おっと。使おうか迷っていたところ、機能性重視でいいと、Moさんから許可が出たので思いっきり振り回した。取り返しのつかなくなってしまった部分もあったが、テープで固定するという荒業でなんとか凌いだ。Moさんはしっかりとしていそうで大雑把なところがあるが、それがまた居心地の良さを作り出している。芦北屋にまた1つ爪痕を残した。

令和7年9月4日(木)

ついに明日、Aoiが帰ってしまう。寂しい

午前中、天草市役所の他部署の方が訪問に来るということで、ごしょんなべすにお招きした。御所浦での活動や、インターンの感想などを述べた。できることなら延長したいです！と冗談で言ったつもりだったが、延長が許可された。嬉しすぎる。やはりこの島に来たからには、人々と交流した方がいいと伝えた。一番の魅力は交流だろう。

Moさん、先輩、私でYuuさんのパスタをいただいた。ペロペロカルボという裏メニューを食べたが、これがうますぎた。てかなんでもうまいんだよな、ここ。パスタ待ちの時間でけん玉を練習した。Moさんが膝を全く使わずに乗せていたので、真似をしてみたら全くできなかった。Moさんに弟子入りしたが、弟子入りする人を間違えたかもしれない。

先輩の圧に負け、芦北屋の掃除を手伝った。私は掃除機を担当した。座敷が暑すぎて、「あちい」とつぶやきながら掃除をしていると、先輩に聞こえていたらしく、冷えたお茶を持ってこさせてしまった。なんという失態。申し訳ありません！

Kaiくんがまたまた時計を教わりに来ていた。今回は見守るだけにしていたが、時計を見て、何時何分まで読めるようになっていた。成長に感動した。教育者はこういう成長がモチベーションになっているのだろう。

Aoiの送別会っぽいやつを行った。たくさん集まった。Moさん、Ikeさん、先輩、Nii、Aoi、私の6人だ。Aoiの彼女についてたくさん語ってくれた。彼女のために駅まで迎えに行った話、図書館でゲームをした話、山にある高台で膝枕してもらった話など（間違えていたらごめん）、Aoiにしかできない話でおもしろかった。途中、主役が移りかけたけど、最後まで楽しそうにしている何よりだった。

Aoiが滞在先に帰る時間になった。迎えに来たRiさんからは、「今の時代はなんでもできるから、やりたいことをやりなさい」というありがたいお言葉をいただいた。Aoiは最高の夏休みだったと言ってくれた。泣きそうになりながらAoiを見送った。

Niiから散歩に行こうと誘われたので、夜の嵐口を堪能した。やはり都会と違ってめちゃくちゃ静かだ。波もないので、静かな夜の海が新鮮だった。ハイキングコースは暗くて怖かったので、引き返して前島にある遊歩道を歩いた。

顔の前に大きすぎる蜘蛛が出てきて、驚いて逃げたらめちゃくちゃに文句を言われた。暗闇の中、先を歩かせたことに対しても不満があったらしく、文句の嵐だった。次は気を付けよう。

その後は芦北屋に戻り、レゴで盆栽と花を作った。Ikeさんが花の部品の1つを見て、「これは素晴らしい！色々な可能性を秘めている！」と言っていたが、全くわからなかった。完成まではいかなかったが、様になったレゴはインテリアの1つとして映えそうだった。

今日も夜遅くまでお疲れさまだな。

令和7年9月5日(金)

今日、いよいよAoiが旅立つ。芦北屋で時間をつぶした後、池田屋に撤収の手伝いに行った。Aoiと最後のアイスをいつも通りに食べた。いつも通りのAoiだった。Aoiは寂しくないのだろうか。Aoiだから寂しくはないだろう。

気づけばお別れのフェリーの時間になり、フェリーに乗るまでいつも通りだった。また明日会うかのように別れの挨拶を済ませ、Aoiはフェリーに乗っていった。いつも通りのAoiだ。フェリーが出発する。いつも通りのAoiだ。・・・ん？

二度見すると、これまで見たことがない満面の笑みで、文字通り全身を使って手を振っていた。Aoiってあんなに笑うんだ。こちらも全身を使って手を振った。また会おうな、Aoi。

Aoiと別れた後、Moさん、先輩、Nii、私の4人で流木と石を拾いに海岸へ行った。石の遠投対決を行ったが、肘先だけで投げても勝てるほど、全員相手にならなかった。次は左で投げようか。

夕飯は、Ikeさんと一緒に、牧島にいるMadさんにホルモンをご馳走してもらった。それまでホルモンが好きというわけではなかったが、今日、好きになりました。Madさんは、島に関してのアイデアをメモしているらしく、その数は膨大だった。「ばあばあの冥土カフェ 燃え燃え合掌」を見てIkeさんと爆笑した。センスが光りまくっていた。ほかにも、御所浦の昔の地名が書かれている地図を見せてくれた。Ikeさんがめっちゃくちゃ感動していたのを見て、これはすごいものだと思信した。歴史を勉強しろと言われたので、明日から勉強したい。

肉焼き係を担当していたが、Madさんのお話に聞き入ってしまって何回か焦

がした。その度に怒られた。社会に出たら、話を聞きながら気遣いをすることが大切だと教わった。Madさんは喧嘩をしたら誰にも負けない自信があるらしい。今はそんなに血気盛んではないとおっしゃっていたので、丸くなったんですねと口を滑らすと、「最初から丸いわ！」と殴られそうになった。まだ全然丸くなってないな。

Ikeさんが、ずっと我々に敬語だった意味を教えてくれた。距離感を近くすることもできたが、あまり干渉せず、自由に行動してもらいたいという想いがあったらしい。それでもIkeさんとはたくさん話し、仲を深めることができた。ごしょんなベースを汚くしてしまっていたことを謝罪し、これからもよろしく申し上げますと伝えた。

食べ過ぎと飲み過ぎで気持ち悪くなった。また次に来島したときには、肉を完璧に焼けるようになっておこう。



▲石の遠投

令和7年9月6日(土)

Ziさんの船に乗せてもらい漁に行く予定だったが、中止になった。ショック、暇になってしまった。

昼ごはんどうしようと考えていたら、Ikeさんからペペロンチーノを食べないかと誘われた。例のにんにくまるごと1個ペペロンチーノだ。おいしかったし、にんにくが臭わない最高だったやつ。多分これが最後になるだろうなと思いき、味わって食べた。やはりうまい。鷹の爪を思い切って2本入れてみたらしいが、辛いのが全部Ikeさんに入り、めちゃくちゃ汗をかいていた。なんかごめんなさい！

Ikeさんは冬の話をしてくれた。島あじマラソンがあるらしく、毎年すぐ予約が埋まるくらい人気だそう。ランナーと地元民との交流もあり、それを楽しみに来てくれる人もいるのだとか。交流できることはいいことだ。絶対行こう。

午後暇だったので、いつものふかふかイスに座って読書をしていると、今頃になってAoiの口癖にハマったのか、Ikeさんがマイクラをやりながら「なんだよな～」を連発していた。Aoiが御所浦で生きた痕跡は確実に残っている。

下浦に遠征中のMoさんから、先輩がドラえもん日本旅行のボードゲームを買ってくれたと連絡が入った。飛び跳ねた。明日絶対やろう。

令和7年9月7日(日)

芦北屋に行くと、ドラえもんのボードゲームと人生ゲームが置いてあった。みんなで作るのが楽しみだ。

先輩に、夕日を撮りに散歩に行こうと誘われたので、例の遊歩道を歩いた。先輩曰く、私は自己開示が少ないらしい。自分のことをもっと話すべきだと教わった。他人にも無関心だと指摘していただいた。自己開示が少なく、他人にも無関心。ん？私には何が残っている？そう言いたくなかったが、先輩に自己開示をすることにした。自分について話すと、先輩から、芯のある男になれとのアドバイスをいただいた。一貫性のある、意思の強い男になろう。

楽しみだったドラえもんのボードゲームを先輩、Niiと3人でやった。俺はプロだからと散々イキってビリだった。穴があったら入りたい。Moさんも合流して人生ゲームをやったが、私だけゴールまで借金生活だった。今日の

運勢は大凶だろう。

皆既月食が見られるということで、深夜3時ごろに外に出た。すでに皆既月食は始まっており、月が消えたり浮き出てきたりで不思議な感覚だった。何気に御所浦で星を見るのは初めてだ。普段見ている星の数の100倍近くはあった。

明日は先輩を空港までお見送り。寝不足確定だな。

令和7年9月8日(月)

先輩を熊本空港まで送るために、朝8時に再び芦北屋を訪れた。2時間しか寝られなかったが、先輩は1時間しか寝ていないらしい。最強だな。車の中で寝ていく予定だったが、眠いのになぜか眠れなかった。

下浦弁天会を訪れた。弁天会のお母さんの存在と聞いていたKeiさんにお会いした。Moさんたちが作った「下浦石工唄」について教えてくれた。歌詞にストーリーがあり、感動する唄らしい。CDを5枚買った人もいるくらいだそう。歌詞を制作した武蔵野美大の学生や地域の方など関係者の功績に感動した。

丸尾焼を見た。日常的に使えるようなものが多く、中には底に穴が開いているものもあった。素朴な感じがして、どちらかというと機能性重視なのかなという印象を受けた。

先輩とラーメンを食べ、Moさんの歯医者が終わるまで周辺を散策した。ここでも、先輩に自己開示をした。読書が趣味であることを伝えると、おすすめの小説を教えてくれた。実はこのインターンを探したきっかけも、最近読んだ小説に少し影響されたからである。大好きなジャイアンツの話もめちゃくちゃ聞いてくれたので、調子に乗ってめちゃくちゃ話してしまった。先輩は聞いて楽しかったと言っていたが、少し申し訳なくなった。

先輩を見送ると、帰りはMoさんとたくさんお話をした。デザインとは、すべてだ。確かに最近、授業でも「コミュニケーションデザイン」とか「組織デザイン」とか、やたらとデザインという言葉を使うことが多い。Moさんは、地方で暮らすデザイン（まちがっていたらごめんなさい）をテーマに卒業制作を行ったそう。Moさん曰く、地方で暮らし、地方を知らないと地方創生はできないらしい。たしかにそう。物流会社の事務職でも、現場を知るために、最初の数年は倉庫に配属される。そうしないと、現場を置き去りにした施

策が誕生してしまうからだ。それと同じように、地方創生に事業を拡大する大企業の人たちも、地方で暮らし地方を知るべきだ。私も、実際に御所浦の人々と関わってその大切さを実感することができた。Moさんの主張は至極全うだと感じた。

Moさんの考え方にたくさん触れて、人生安定がすべてじゃないなと思った。私は影響されやすい性格なので、もちろん将来については客観的に熟考する必要があるが、今を生きるのも悪くないし、御所浦ではそれができてしまうのではないかと思ってしまう。それは何より、いざとなったら助けてくれるのではないかと思ってしまう御所浦の人のよさに由来している。今を生きている人は楽しそうで惹かれる。時間をおいてもう一度考えてみよう。

睡眠時間2時間だが、嵐口のバレーボールに招待されたので行くことにした。外靴を洗って使おうとしたが、ホースから出てくる水が強すぎてびしょびしょにしてもうた。あちゃー。仕方なく得点係をやることにした。60代70代が大半を占める中、かなりレベルの高いラリーが繰り広げられていた。中には、空振りしてヘディングをしたり、白熱したラリーをキャッチで強制的に終わらせたりするなどのファインプレーも連発していたが、終始接戦だった。休憩した70代くらいの方と10年後の御所浦についてのお話をした。その方曰く、10年後は想像できないらしい。たしかに、70代以上の方がこんなにたくさんいるのだから、10年後はどうなってしまうのかはわからない。Moさんが言うように、高齢者が元気な今が勝負どころなのかもしれない。

芦北屋で「今日好き」とやらを見せられた。なぜか最終回だったが、振られまくっていて残酷だった。MoさんとNiiがやたらと批判していた。ふあー恐ろしい。

令和7年9月9日(火)

また新しい出会いがあった。芦北屋で流木展を開きに、Tsuくんがやってきた。事前の打ち合わせで顔合わせは済ませていたが、身長が180cmあることに驚いた。ものすごくまじめな印象を受けた。55万円のギターでドライフラワーを演奏してくれた。



▲オンラインでの事前打合せ

彼の仏像を観察した。掘り始めて2か月くらいだが、毎日掘っているらしい。彼の仏像は表情の一つ一つが異なっていて、題名もユニークだった。途中から県庁の方も来て、Tsu くん作品に見入っていた。

熊本県の地域おこし協力隊を担当している Sho さんとお話した。先日の化石発見クルーズのときにお会いしたので、2回目だ。相変わらず常にボケ続けていて、Tsu くんが掘った仏像の顔真似をしていた。私もさせられた。仏像のおへその部分を指して、これ「○○○かと思った」と卑猥に見せてくるのもやめていただきたい。鹿児島から派遣されて熊本にいるそうで、もうすぐ帰ってしまうらしい。島あじマラソンで再会する約束をした。

Tsu くんのだな名がまさやんに決まった。名付け親は Nii だが、なぜか名付けセンスを自慢していた。いや誰でも思いつくだろ。

ドラえもんのボードゲームをやった。真面目なイメージのまさやんだったが、少し、いや、かなりおかしいところがある。語尾が「だなも」だったり、たまに恐ろしく鋭い言葉を発する。まさやんからボソッと出てくる言葉のナイフに、Nii が恐れていた。ちなみにドラえもんは私の圧勝だった。さすがプロといったところか。

令和7年9月10日(水)

今日も新しい出会いがあった。まさやんの同級生で、宮崎から Hat ちゃんと Ai さんがきた。この2人もまた面白い2人で、特に Ai さんがぶっとんでいる。車で流木を拾いに行ったのだが、まさやんは Mo さんの車に、私は2人の車に乗せてもらった。途中、鳥の大群がいたが、そこでなぜか Ai さんが車を飛び出し、鳥の大群へと突っ込んでいった。どうやら大群が大好きらしい。とくに、鳥は一匹よりもたくさんいた方がいいらしく、「俺、ねこもすきなんだぜ」（彼女は一人称が俺です）と言って、飼い猫の集団にも突っ込んでいた。そんな Ai さんと中和するように、Hat くんは真面目だった。そしてめちゃくちゃいい人だった。Ai さんの意味不明なボケを Hat くんが冷静な感じで捌く。後部座席に乗っていてとても楽しかった。

海岸に着くと、Mo さんが化石を見つけて宮崎の3人に披露していた。私は見飽きるほど見てきたので驚かなかったが、初めて見る3人はガチトーンで「え」という一文字を発すると、夢中になって化石を探していた。気持ちはわかる。化石がその辺にたくさん落ちているなんて普通じゃない。改めてすごい

島だなと感じた。

まだ集めるの??と文句を言いたくなるくらい、大きくて重い流木をたくさん運んだ。これが重いんだほんとに。夕陽を見ながらの流木運びはいい思い出になった。

明日はいよいよ流木展の展示準備だ。気合を入れていこう。



▲いくらでもある流木

令和7年9月11日(木)

昨日の流木運びのせいで、肩の筋肉痛がすごいことになった。またひと回りごつくなれたのではないか。

Katさんも流木展の手伝いをしてくれた。流木を切る作業のときに「神戸大学なんだから数字を使わないと」と20回は言われた。なぜか私をAoiと呼ぶことにハマっているらしく、30回は名前を間違えられた。流木の断面を削るために、Katさん宅に紙やすりを取りに行った。嵐口の迷路をついていったが、Katさんの原付が速すぎて見失ってしまった。もっと後ろを気にして走ってほしいものだ。嵐口の道路は家同士が近すぎることもあり、かなり狭く、そして入り組んでいる。^{せどわ}背戸輪というらしい。そのため、初めて来た人にとっては迷路のように感じられる。分からないままとりあえず進むと、気づいたら見晴らしのいい場所にたどり着いていた。そこで、Enさんという方にお会いすることができ（これまで何度もお会いしたことのある嵐口の方）、旧嵐口小学校跡地を案内してもらうことができた。運動会を畑から応援する様子の写真もあり、校舎もしっかりしていた。昔は栄えていたのだろうなという印象を持った。修学旅行生を受け入れていたお話も聞くことができた。神戸の中学校の生徒もいたらしく、結婚した後に訪れてくれたんだとか。やはり御所浦で一度暮らすと、みんな戻ってきますよ。Miさんのお話とのつながりを聞くことができた。

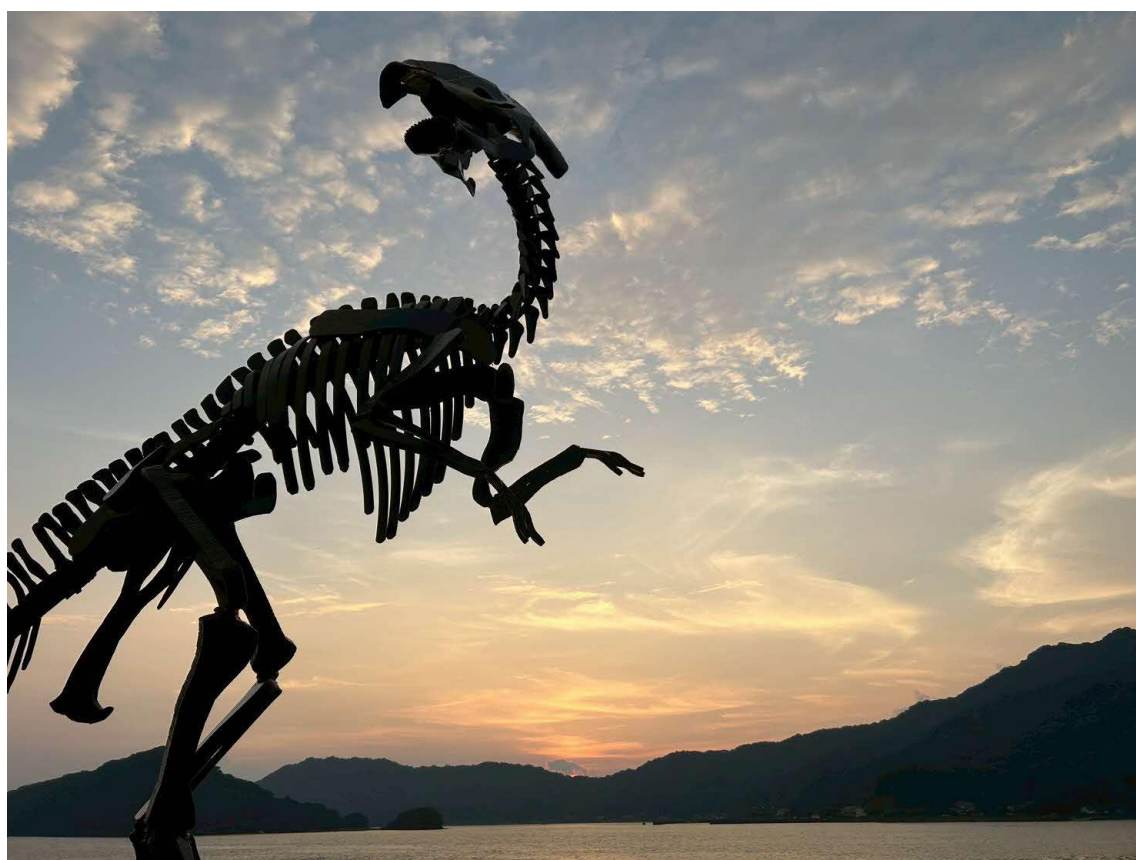
お笑い芸人のFukさんがロケで御所浦に訪れていたらしく、なんと芦北屋で宴会をするらしいとのことなので、お手伝いに参加した。撮影が始まるとロケモードに移行し、画面の先に見ていた光景を真横から見ることができた。リアクションもカメラワークもプロだった。そして何よりも飯がうますぎて、1人だけ撮影中にガツガツ食べてしまった。映っていないことを願うのみだ。Fukさんと個人的にお話しすることができ、私の出身である沼津をご存じだった。これは自慢できるぞ。

Moさんがひと通り若者を紹介してくれた。その中に当然まさやんもいたのだが、まさやんの流木展にFukさんがかなり興味を持っていた。そしてなんと、まさやんに自分の流木を掘ってほしいと依頼したのだ。すごいぞまさやん。まさやんはテレビに映る予定ではなかったらしく、かなり緊張していた。かなり面白かった。

撮影が落ち着くと、みんなでご飯を食べ始めた。中でもカニの味噌汁が絶品

で、今まで食べた味噌汁の中で一番カニの味が出ていた。撮影していた Kadさんと仲良くなった。足つるつるだね！と言ってずっと触ってきた。ちょっと変態か。その後も、御所浦の人とたくさん話し、たくさん仲良くなることができた。Masさんをはじめとして、たくさんの人に「(御所浦に) このまま残らないか」と言っていた。なんて幸せなのだろうか。最後の夏休み(になる予定)の過ごし方で迷っていたが、勇気を出して行動してみて本当に良かった。(留年してよかった。)

宴会が終わった。その後もまあ色々あったな。知る人ぞ知るいろいろが。



▲島のあちこちにある化石のオブジェ

令和7年9月12日(金)

朝まで展示準備を手伝ったので、昼に爆睡してしまった。なんと昨日初対面の Kad さんが、わざわざ私の寝室まで挨拶をしに来てくれた。寝ていて申し訳ありません！次に御所浦に来るときには Kad さんに会いに行こう。

まさやんは寝ない生活に慣れているらしく、睡眠時間30分とかで流木展に来る人をもてなしていた。ショートスリーパーかと聞くとそうではなく、この時期の頑張りの反動で毎回長期休みに体調を壊しているらしい。大丈夫だろうか。「大丈夫だなも」と言っていた。

流木展は20人ほどきたらしい。多いのかどうかはわからないが、大学生が開いた個展に人が集まるのはすごいことだ。昨日、Fukさんが作品を依頼していたので、Katさんと私も冗談で依頼していたのだが、なんと掘ってくれることになっていた。それも、私を優先に掘ってくれるらしい。一生大切にしよう。

令和7年9月13日(土)

明日のあさいちで帰るため、実質今日が最終日だ。感謝の気持ちを込めて、部屋の片づけを行った。

芦北屋に着くと、まさやんが私の仏像を彫ってくれていた。訪れるお客さんを相手にしながら1日中掘ってくれたらしい。身内で流行っている「目指せ！甲子園」ポーズも再現してくれた。なぜか髪型はリーゼントだったが、大きい流木で掘ってくれた。一生大切にしよう。

芦北屋近くの駐在所前で、ジャズコンサートが行われていた。その影響もあってか、流木展にはこれ以上ないくらい人が集まった。まさやんの周りに人が集まっていて、なんだかととても誇らしい気持ちになった。

私の好物が餃子ということもあり、Moさんが私のために餃子パーティーを開いてくれた。Niiもまさやんも頑張ってくれた。やはり「餃子」という本を見ながら焼く餃子はうまい。まさやんが「ズッ友だなも」と言って、依頼していた仏像を渡してくれた。仏像もまさやんとの縁も、一生大切にしよう。

まあ色々あった。一生大切にしよう。

令和7年9月14日(日)

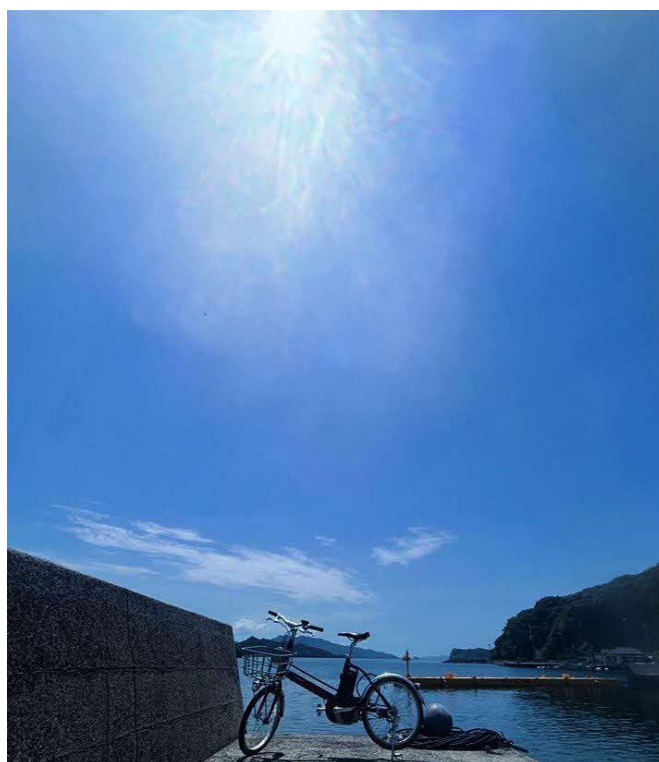
まさやんのいびきで朝5時くらいまで眠れなかった。まあそれだけが理由ではないが。朝7時ごろの定期船だったのに、Masさん、Ikeさん、Moさん、Nii、まさやんが見送りに来てくれた。まさやんは半分、いや7割寝た状態でなんとか来てくれた。寂しくて泣くかなと思い、サングラスまで用意したが、意外とすんなりと別れられた。また近いうちに絶対に来るといふ強い想いがあつたからかもしれない。島に来る大きな理由もできたことだし。みんなが見えなくなるまで手を振った。

初日に降りた棚底のバス停からバスに乗った。今回は知十（御所浦に来るときに乗り換えたバス停）で乗り換えるというようなアホなことはしない。バスに乗ったら、初日に来たとき同様、貸し切りだった。初日のことは鮮明に思い出せるのに、なぜか物凄く懐かしい気分だった。



▲思い出の知十バス停

あれから1か月半が経った。一瞬、早かったなと感じたが、島での出来事を振り返ってみると、無限に思い出せるくらい色々あった。成長したな、俺。家までの11時間（本来は7時間で着く予定が、飛行機に乗り遅れたり、電車を間違えて迷子になったりした。田舎人になってしまったのか。）。御所浦でのことを思い出しているだけで時間が過ぎてしまった。御所浦での出来事を、家族にたくさん話そう。そして今度は、家族や友人を連れて御所浦に訪れよう。この縁は永遠に。



最後に

御所浦で私に関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

ZINEの中で、少し失礼な書き方をしてしまっているかもしれません。不快に感じられた方がいらっしゃったら、本当に申し訳ありません。ただ、それでも私はもれなく全員のこと大好きです。

私は留年をしているので卒業論文はすでに経験済みですが、あの2万字は苦行そのものでした。もう書くことがないのに、書かなくてはならない。しかし今回のZINEは違いました。気づけば3万字に届きそうな勢いで、むしろ「まだ書き足りない」と思いながら筆を進めていました。あと1万字は書けそうですが、期限が迫りMasさんに迷惑をかけてしまうので、このあたりで締めることにします。

本来なら感動的な言葉で結びたいところですが、どうせまたすぐに御所浦でお会いできるので、ここでは控えておきましょう。

では、また。

令和7年9月
地域おこし協力隊インターン
平田友太